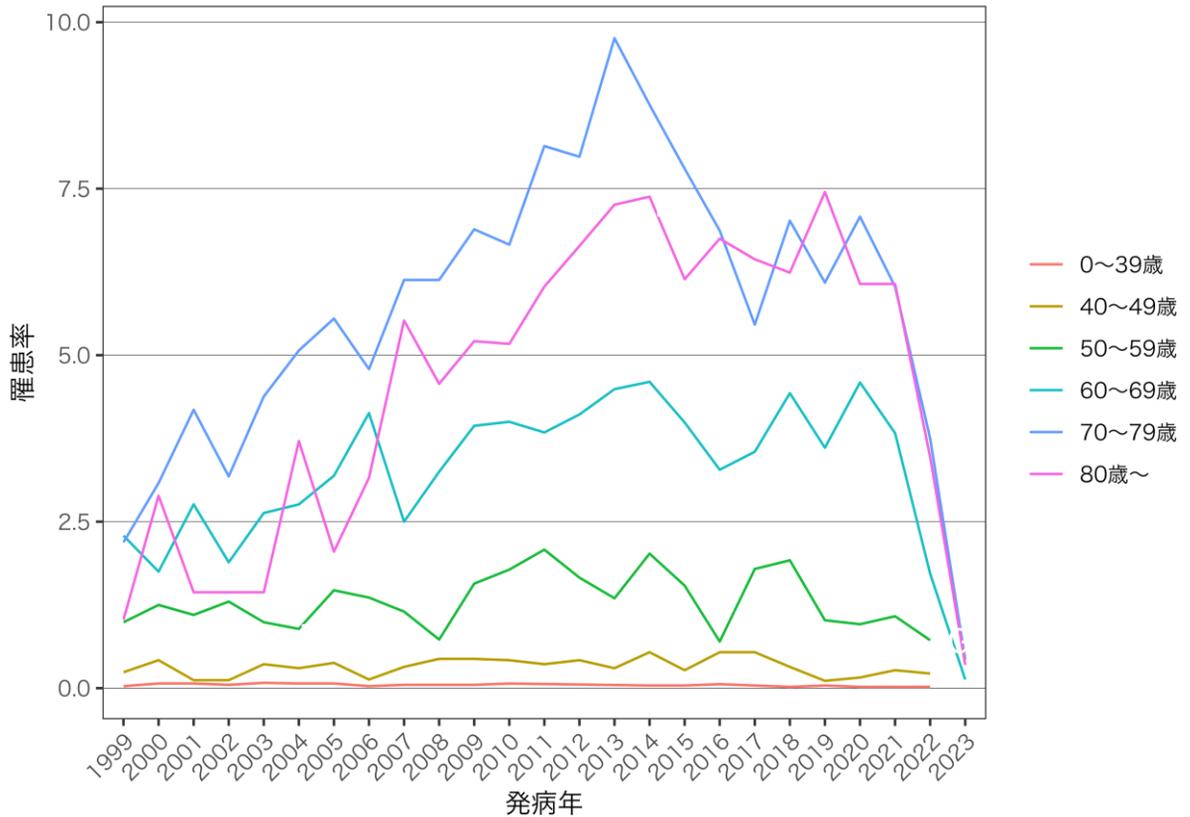


全国サーベイランスに基づくわが国の プリオン病の疫学像（1999年～2023年）

研究分担者：自治医科大学地域医療学センター公衆衛生学部門

阿江竜介

プリオン病の年齢階級ごとの罹患率の年次推移



*罹患率の単位は人口100万人対年間である。罹患率の分母には国勢調査における人口を使用した。

解 説

1. プリオン病の年齢階級ごとの罹患率の年次推移を示した。
2. 主に60歳以上の高齢者で罹患率が増加している。
3. プリオン病の認知度が高まり、高齢者の認知症がプリオン病と診断されることが増えてきたためと考えられる。
4. プリオン病を発症してから、サーベイランスを経て、登録されるまでには数年を要するため、2020年以降の罹患率は減少しているように見える。
5. 2014年以降も罹患率が上昇傾向である可能性もあり、サーベイランスの継続が必要である。